

効果のある英語授業での活動の繰り返し：ICT機器を利用した振り返りと分析

著者	田中 里美
著者別表示	Tanaka Satomi
雑誌名	平成30(2018)年度 科学研究費補助金 奨励研究 研究概要
巻	2018
ページ	1p.
発行年	2020-03-17
URL	http://doi.org/10.24517/00060589

[◀ Back to previous page](#)

効果のある英語授業での活動の繰り返し～ICT機器を利用した振り返りと分析～

Research Project

Project/Area Number	18H00006
Research Category	Grant-in-Aid for Encouragement of Scientists
Allocation Type	Single-year Grants
Review Section	1120:Literature, linguistics, and related fields
Research Institution	Kanazawa University
Principal Investigator	田中 里美 金沢大学, 人間社会学域学校教育学類附属中学校, 中学校教諭
Project Period (FY)	2018
Project Status	Completed (Fiscal Year 2018)
Budget Amount *help	¥370,000 (Direct Cost: ¥370,000) Fiscal Year 2018: ¥370,000 (Direct Cost: ¥370,000)
Keywords	即興対話 / 繰り返し / ICT

All

Outline of Annual Research Achievements

対話を繰り返すことが、英語でのコミュニケーション力を向上させる上でどう効果があるかを解明するため、昨年度から受け持つ本校2年生を対象に、実際の英語の授業で1対1の対話活動をした。①帯活動(ODP)②教科書の基本対話を変えた創作対話③起こりうる場面を想定した対話の授業と、原稿を書かない即興対話を繰り返した。平成30年度は、都合により4月から7月まで実施した。①は、1年生で40秒から始め2年生では60秒の対話を毎日全員が継続できた。②は、教科書の2回のやり取りを1年生では3回、2年生では4回を全員ができ、徐々に表現豊かな対話が見られるようになった。③は、総合学習「金沢フィールドワーク」で外国人観光客に課外インタビューしたことを想起し、『外国人観光客とのインタビューで金沢の魅力をさらに伝えるには?』という課題で、2人に1台のICレコーダーを使い対話を3回繰り返した。授業後の感想では「外国人から質問を返される場合にそなえてODPで鍛えていきたい」「フィールドワークでできなかったことを授業で解決できた。授業の最初は会話が続かなかったが、最後は時間いっぱい(90秒)話げできた。機会があればまた試したい。」などの意見があった。他の成果として、学年全員実施の英検IBAの結果がある。1年生(156名)の12月に実施のリスニング問題の正答率は63%(R:リーディング61%)、2年生(157名)の7月では69%(R72%)と、いずれもリスニングの正答率が高かった。同IBAの英検レベル判定では、約半年間で2級(6人←4人)準2級(54人←15人)3級(70人←89人)4級(23人←45人)5級(4人←3人)と変化した。また、2年生7月で3級以上の生徒は130人(83%)に、準2級以上の生徒の割合が半年間で60人(38%)に達した。研究中断後は、対話の繰り返して対話がどう変化するかをさらに分析する。

Report (1 results)

2018 Annual Research Report

Research Products (1 results)

All Other

All Remarks

[Remarks] 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属中学校ホームページ

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-18H00006/>

Published: 2018-04-23 Modified: 2020-03-17